

【3】 入学から卒業までを見通したキャリア教育

入学時から卒業を見通してキャリア形成を行い、各学年での学習成果を着実に積み上げることで、卒業後の目標に向けて社会人・職業人として必要な能力を自ら培っていく取組を実施。

(例) 阿南工業高等専門学校

【キャリアデザインワークブック 表紙、目次等(抜粋)】



はじめに …… キャリアデザインってなに？

将来どんな仕事をしたいか？そのためには何を勉強すべきか？いろいろ計画し、目標を定めて実行していくことがキャリアデザインです。このワークブックはみなさんのキャリアデザインをお手伝いするアイテムのひとつです。このワークブックを低学年のロングホームルーム(学級活動)のキャリア教育(年4回、3年間で12回)の時に使用します。「キャリアワーク」の欄は担当の先生の指示にしたがって書き込んでください。最後のまとめ(4章)は4年生になる春休みに自分で書きこんでください。

「阿南高専生のキャリアデザイン・ワークブック」の目次

- 1. 高専1年生のキャリアデザイン
 - 1-1. 高専生活を有意義なものにするために …………… 2
 - 1-2. 社会に出て働くことの意義 …………… 4
 - 1-3. 企業と社会
 - 1-4. 高専で学びながら身につけたいマナー
- 2. 高専2年生のキャリアデザイン
 - 2-1. 会社の組織とエンジニアの仕事
 - 2-2. 企業にとって好ましい人材とは
 - 2-3. 必要とされるコミュニケーション力
 - 2-4. 先輩(卒業生)の体験に学ぶ
- 3. 高専3年生のキャリアデザイン
 - 3-1. 業界研究と企業研究
 - 3-2. 自分を知り、自分を知らせてもらう
 - 3-3. インターンシップ参加の目的と意義
 - 3-4. 就職・進学の流れ
- 4. いままでのキャリアデザインのまとめ

1-2. 社会に出て働くことの意義

1-2-1. 働かないとどうなるか

学校を卒業して働かないとどうなるのでしょうか？江戸時代なら身分に応じた職業に強制的に就き、決まったラインの上で生活する事になります。自由はありませんが、不祥事を起こさない限り、平坦な人生をおくることができたでしょう。しかし現代の私たちに、職業選択の自由が与えられますが、その代わりに職業を探して働かなければ現金収入を含めた「収入」を得ることができません。

現代社会においては、収入が得られないということは即、生活できないということになります。今、自分は働かなくても生きていけると思っている人は、誰か(保護者)に養われているということをお忘れしないで下さい。いつまでも養ってくれるような環境なら良いのですが、保護者が健在であるうちは働かなくても大丈夫ですが、それはいつまでも続きません。ニートと呼ばれる不労者が100万人いるといわれていますが、みなさんは社会に出て働き、自立する道を歩んでください。

考えてみよう：人が生きていくには衣食住のほか何にどんなお金が必要か？
光熱費、通信費、交際費、生命保険料、健康保険料、国民年金の掛け金、住民税、所得税(所得があれば)、消費税などの各種間接税、自動車の維持費(修理費、ガソリン代、車検費用、高速道路の通行料金など)。(服を買うお金、食費、住居費は衣食住に含んでおきます)

1-2-2. 働くことによって得られるもの

先ほど話しましたが、家族が大金持ちであなたを一生養ってくれるのであれば、職業を探さなくても生活はできますが、果たして充実した人生を歩むことができるでしょうか。人間は社会的な生き物です。やはり、職業に就いて社会の一員としての「居場所」を確保することで精神的な安定、地位や名譽と収入を得ることができるのです。

社会に出て労働し、対価としての報酬を得るためには基本的に「他人のために」仕事をしないといけません。「自分のために」仕事をするとはわけが違います。自分のための仕事とは家事や趣味になるのです。社会に出ると、他人が納得する仕事ができるようになってはじめて報酬がもらえます。ただ、会社の組織が大きくなり一人前に仕事ができるまでの勉強の期間に余裕があって半人前でも給料がもらえますが、会社が小さかったり、実力主義の人事システムだと、即戦力としての実力が問われます。そのような厳しい社会にたどり着かれて生きていかなければならないのも、現代人の実情です。

社会人として数年生活し、恋愛もすると家庭を持つ(つまり結婚する)こともあるでしょう。働くことによりある程度安定した収入がないことは家庭を持つことも不安です。結婚をして新しい人生を歩むということは具体的な経済問題を解決していくことでもあるのです。自分の家族を持つということは自分の人生が未来につながっていることを意味します。日本では「家族を持つてはじめて一人前」ということが言われますが、家族を持った喜びが自責と責任感につながり、さらなる仕事への情熱を生み出すのです。

学生時代が終わってもすぐには収入は得られません。就職して最初の給料日までは収入がないので、要注意です。この期間は本当に心細い思いをしました。お金が無いって本当に悲しいことです。

人生の成功を握るカギは次

- ・目標を定めること
- ・実行すること
- ・失敗してもあきらめないで

低年次から卒業後のビジョンを開かせるため、教育課程早期からの職業指導推進プログラムを実施している。1～3年次での特別学級活動と、4年次における校外実習(インターンシップ)を有機的に結合させることによって、高専本科教育の早期段階から総合的にキャリア教育を推進し、確固たる職業観・倫理観を持たせることで、5年次の就職活動等につなげることを目的とした取組を実施している。

プログラムの中では、企業人等を招いたセミナー等の開催や、学校独自に教材(キャリアデザインワークブック)や教員向けの指導マニュアルを作成し、それに基づいた体系的なキャリア教育が行われている。

【職業指導推進プログラム 全体スケジュール】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年生	← エンジニアとは エンジニアの仕事について →						フ オ ー ラ ム	← どのように勉強すべきか？ 資格取得について →				
2年生	← エンジニアに対する社会の要求 (公害・環境) →							← 5年生の就職試験体験談 4年生の校外実習体験談 →				
3年生	← 本校卒業生の体験談 →							← エンジニアに対する 社会の要求(企業倫理) →				
4年生	← 校外実習の ガイダンス →			← 実習期間および 発表準備 →			・ 発 表	← 目標設定 →		← 調査(企業研究) →		
								← 自己分析 →		← 面接訓練 →		
5年生	← 就職活動期間 →						← 学生時代の総まとめ(卒業研究) 就職準備(スキルアップ) →					

【4】身に付けるべき能力の明確化と到達度の評価

教育課程を編成・実施するにあたり、各授業科目及び教育課程全体を通じて学生にどのような能力をどの程度身に付けさせるかを明確化。

(例)東京女学館大学

社会で必要とされる基礎力として、「10の底力」を設定し、すべての授業科目でこれらのうちどの能力を育成できるかを明確にした教育を行う取組を実施している。

また、授業や各種行事において学生の「底力」を高めるため、効果的な方法を学ぶFD・SD体制を充実させ、学生1名に対して教員1名が履修計画や進路に関するアドバイスをを行うとともに、伸ばしたい「10の底力」がその学生のキャリアプランに合っているかどうか、キャリアカウンセラーが相談に乗る体制を構築している。

semester終了ごとに学生と教員それぞれが能力の到達度を評価し、レーダーチャートで示すことにより、学生は次のsemesterの履修の参考にする。卒業時には、4年間で10の能力の成長度を学生に提示する。

オーダーメイドのキャリア教育



【卒業成長値を高める10の底力】

- ① コミュニケーション能力
- ② プレゼンテーション能力
- ③ ディスカッション能力
- ④ 国際感覚・多文化理解能力
- ⑤ 外国語運用能力
- ⑥ 調査能力
- ⑦ IT能力
- ⑧ クリティカル思考
- ⑨ コンセプチュアルスキル (問題発見・提案・実行力)
- ⑩ 自己理解能力

各授業科目で育成される「10の底力」は、マッピング表において学生に示されている。シラバスについても、能力に対応した授業科目の検索が可能となるよう工夫がなされている。

10の底力 マッピング表

分類	科目名	担当教員	10の底力	①コミュニケーション能力	②プレゼンテーション能力	③ディスカッション能力	④国際感覚・多文化理解能力	⑤外国語運用能力	⑥調査能力	⑦IT能力	⑧クリティカル思考	⑨コンセプト・スキル (問題発見・提案・実行力)	⑩自己理解能力
経済経営	基礎経営	星立 隆	①②③										
	経営戦略論	西山 昭彦	①②③										
	経営戦略論	西山 昭彦	①③										
	経営情報システム論	宮嶋 宏行	①②③										
	人材育成論	西山 昭彦	①③										
	ベンチャービジネス論	西山 昭彦	①③										
	マーケティング論	北川 博一	①②③										
	マーケティング論	辻 朋子	①②③										
	経済政策	西山 昭彦	①②③										
	日本経済	足立 隆	①②③										
企業経営	企業経営	渡辺 崇次	①②③										
	経営戦略論	渡辺 崇次	①②③										
	会計基礎	岸野 昭高	①②③										
	社会心理学	井原 竹博	①③										
心身社会学	健康社会学	James Nickam	①③										
	社会学												

シラバス

シラバスキーワード検索:シラバスを10の底力とキーワードにより検索できます。

10の底力

コミュニケーション能力
 プレゼンテーション能力
 ディスカッション能力
 国際感覚・多文化理解能力
 外国語運用能力
 調査能力
 IT能力
 クリティカル思考
 コンセプチュアルスキル(問題発見・提案・実行力)
 自己理解能力

全てから 検索

- コミュニケーション能力
- 国際感覚・多文化理解能力
- IT能力
- 自己理解能力
- プレゼンテーション能力
- 外国語運用能力
- クリティカル思考
- ディスカッション能力
- 調査能力
- コンセプチュアルスキル

【4】身に付けるべき能力の明確化と到達度の評価

教育課程を編成・実施するにあたり、各授業科目及び教育課程全体を通じて学生にどのような能力をどの程度身に付けさせるかを明確化。

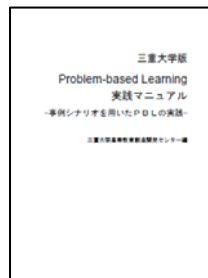
(例)三重大学

学生の「4つの力」を育成することを教育目標として掲げ、その達成に向けた体制整備及び取組が教養・専門教育を通して実施されている。

【具体的な取組等】

(1)PBL: (H17年度～)

問題発見解決型学習、能動的学習、グループ学習、形成的評価などを特徴とする授業スタイルは、4つの力の育成に効果的かつ各授業における学習内容を変更することなく導入できることから、PBLを全学的に展開することを目指したFDや支援プログラム等を継続的に実施。



(2)eラーニング: (H18年度～)

授業の効率化、学生間・学生と教員間のコミュニケーションの促進、ひいては「4つの力」の育成にも効果的であるオープンソースの学習管理支援システムMoodleをカスタマイズし(「三重大学Moodle」)、全学的に展開することを目指したFD等を継続的に実施。



(3)初年次教育科目: (H21年度～)

三重大学の教育目標の理解、学習の動機付け、学習スキルや社会的スキルの獲得などを目的として、全学を対象に「4つの力 スタートアップセミナー」を開発。全体を通してPBLが導入されるとともに、各回の授業では、プロジェクトと関連付けて、「4つの力」に関わるテーマの講義・討論及びリフレクションシートやeポートフォリオを活用した修得能力の省察を実施。

【三重大学「4つの力」】



【「4つの力」及びその下位項目(構成要素)】

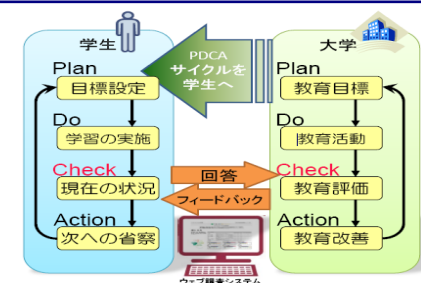
- ・「感じる力」:
感性、共感、倫理観、モチベーション、主体的学習力、心身の健康に対する意識
- ・「考える力」:
幅広い教養、専門知識・技術、論理的思考力、批判的思考力、課題探求力、問題解決力
- ・「コミュニケーション力」:
情報受発信力、討論・対話力、指導力・協調性、社会人としての態度、実践外国語力
- ・「生きる力」:
感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

(第2期中期目標・中期計画(案)より抜粋)

「4つの力」は、「学士力」等の社会から求められている力との整合性も考慮され、知識・理解だけでなく、汎用的技能や態度・志向性とともに社会的能力等の総合的な能力も含むものとして設定されている。

(4)修学達成度評価システム: (H17年度～)

アンケート調査の回答に基づいて、学生の「4つの力」の評定値を算出する評価システムを開発し、学習の省察(学生)及び教育の達成度評価・改善(大学)に活用する取組を継続的に実施。



参考URL: <http://www.hedc.mie-u.ac.jp>

【5】一人一人のキャリア形成に応じた支援

学生支援など正課外活動を通じて、一人一人のキャリア形成に応じた個別支援を行う取組。入学段階から学生一人一人のキャリア形成を支援するため、アドバイザーの配置やキャリアカウンセリングを行う取組を実施。

(例) 金城学院大学

●全教員によるアドバイザー制の導入

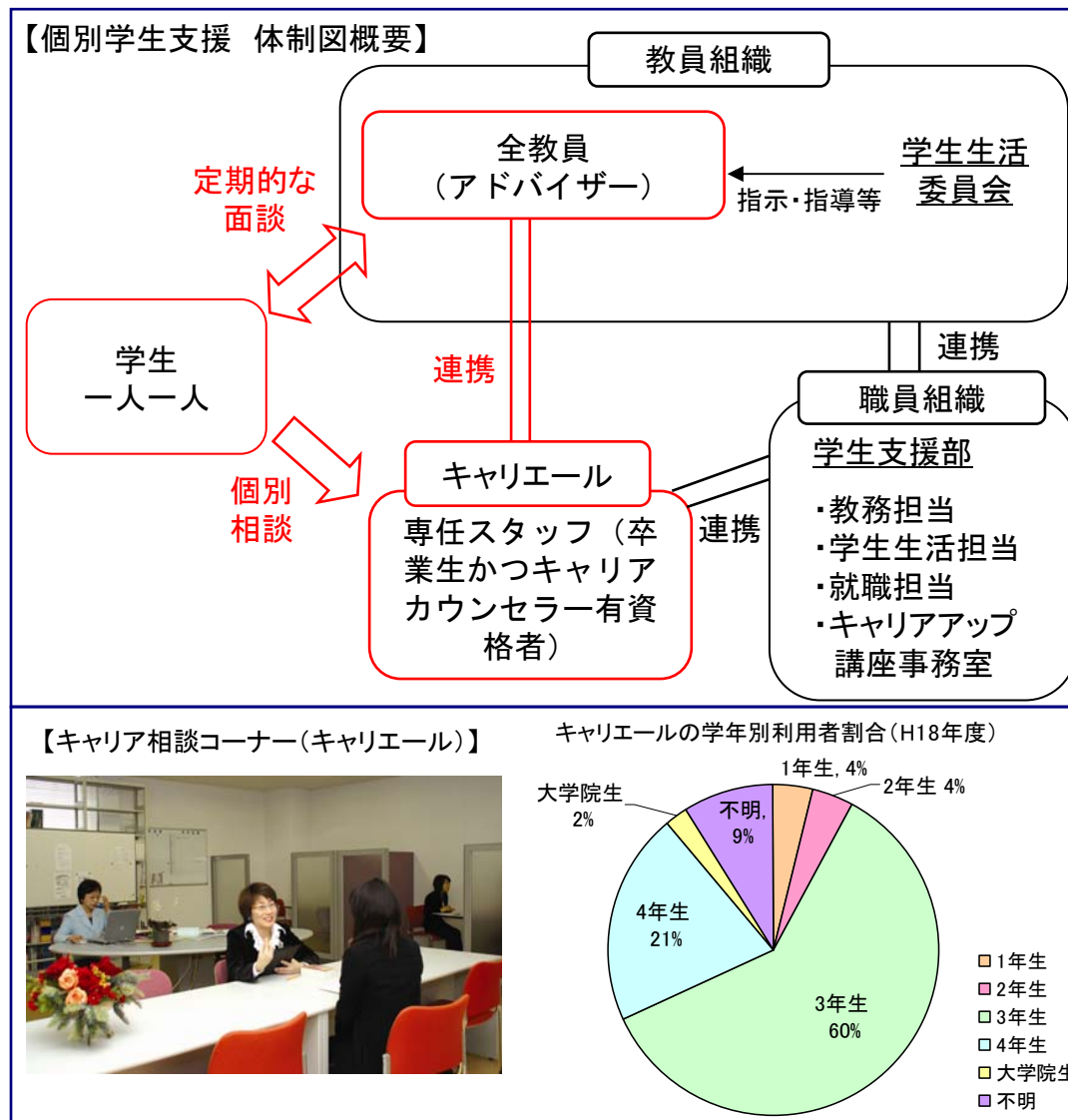
教員が学生と定期的に面談し、学習面、学生生活面等を個別に支援するアドバイザー制をすべての学年において導入している。アドバイザーは担当する学生と定期的に面談し、学習面、学生生活面のみならず、キャリア面での指導にもあたる。例えば、個別の学生の状況に応じ、キャリア相談コーナーの利用を薦めるなど、学内の関係部局との連携の起点にもなっており、学内の関係部局と連携して、きめ細やかな支援を実施する体制を整えている。

●キャリア相談コーナー「キャリエール」の設置

キャリアカウンセラーや専門分野での職務経験のあるスタッフ等の専任担当者が常時配置され、入学後の自己分析から職業選択・就職活動まで、キャリア形成全般にわたる相談が可能な相談コーナー「キャリエール」が開設されており、学生は個別にカウンセリングを受けることができる。キャリエールのスタッフは、3年生全員を対象とした個別面接とグループ面接を行うなど、個別カウンセリング以外にも学生への支援を行う機会を設けている。

<主な相談内容>

- ・将来のために何をしたらいいのかわからない
- ・自分に向いている職業が知りたい
- ・夢はあるが、実現は可能だろうか
- ・大学院に進学すべきか、就職すべきか迷っている
- ・なかなか内定を得られず自信をなくしている
- ・面接でうまく自己アピールできない
- ・自分の希望進路を家族に反対されている など



参考URL: <http://www.kinjo-u.ac.jp/gp/>

【5】一人一人のキャリア形成に応じた支援

学生支援など正課外活動を通じて、一人一人のキャリア形成に応じた個別支援を行う取組。入学段階から学生一人一人のキャリア形成を支援するため、担任の配置やキャリアカウンセリングを行う取組を実施。

(例) 名古屋工学院専門学校

一つの専門分野を捉えても、対応する業種・職種は様々であり、学生の適性、希望する業種・職種、技術力は一人一人異なることを踏まえ、クラス担任とキャリアセンターの専任スタッフが協働して、授業「キャリアガイダンス」及び学生一人一人に対する個別指導を行っている。

授業「キャリアガイダンス」では、自己理解や自己分析に重点を置きつつ、ヒューマンスキル等の向上を目指した授業が行われ、キャリア形成・就職活動に向けて分野を問わず必要な能力の育成が目指されている。

また、担任の教員との毎月の個別面談や日々のコミュニケーションの中では、学生の考えや性格、能力に応じたアドバイスが行われており、学生一人一人に合った業種・職種の理解の促進や、将来に向けて必要な技術の習得及び資格取得に向けての動機付けなどの就職支援、生活指導や学習指導、悩み相談にも個別に対応し、必要に応じて心理士によるカウンセリングも行っている。

また、就職に際しては、担任及びキャリアセンターの専任スタッフが、各学生に合う応募先の情報提供、応募書類の書き方、面接試験対応など、幅広く相談を受ける体制を整え、学生一人一人に合う業種・職種・会社の紹介を行っている。

① キャリア形成支援

<キャリアガイダンス>

(週1回、担任、キャリアセンター専任スタッフが担当)

【主な授業内容】

- ・ヒューマンスキル
- ・基礎学力向上
- ・自己分析、理解
- ・社会人としての常識、マナー
- ・業界研究
- ・就職試験対策 など

・クラス担任
・キャリアセンター専任スタッフ

授業

<技術教育>

(各科目担当教員が担当)

- ・座学、実験、実習
- ・業界の技術動向 など

クラス

個別支援

・クラス担任
・キャリアカウンセラー

学生
一人一人

授業

科目
担当
教員

<個別面談>

(担任、及びカウンセラーが適宜担当)

- ・学生の性格、能力の理解
- ・悩み相談
- ・アドバイス

派遣

企業

<インターンシップ>

- ・企業実習
- ・事後の実習報告会

② 就職支援

- ・応募会社の紹介
- ・履歴書、エントリーシート確認、指導
- ・就職試験指導
- ・面接試験指導 など

科の主任、科長

個別指導

キャリアセンター
専任スタッフ

個別支援

学生
一人一人

個別支援

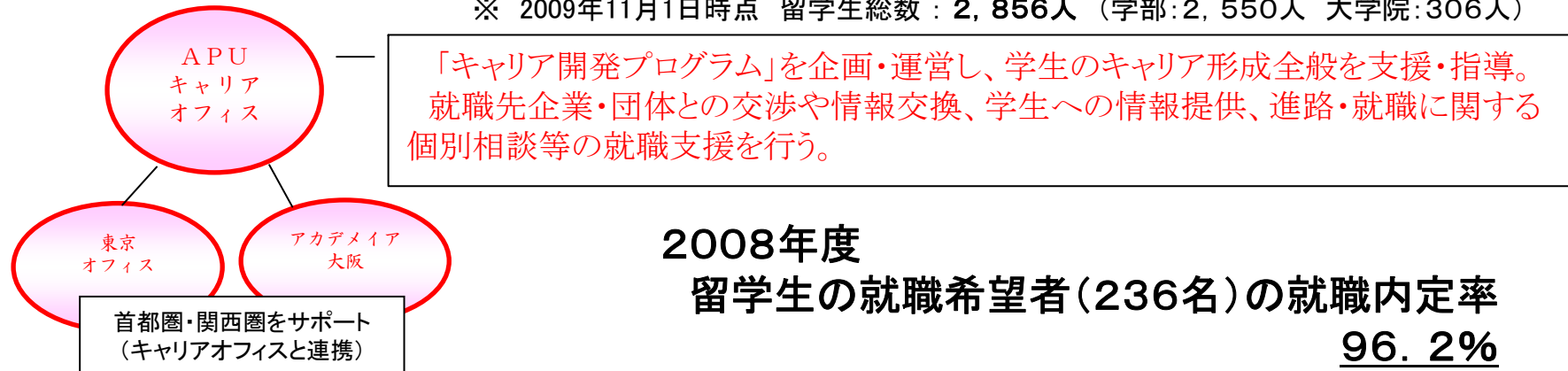
クラス
担任

【5】一人一人のキャリア形成に応じた支援

入学段階から卒業時まで学生一人一人のキャリア形成を支援するため、留学生・日本人学生合同で「キャリア開発プログラム」等の取組を正課内・正課外活動として実施。

(例)立命館アジア太平洋大学

※ 2009年11月1日時点 留学生総数：2,856人 (学部:2,550人 大学院:306人)



2008年度

留学生の就職希望者(236名)の就職内定率

96.2%

【1】入学直後から取り組む「キャリア開発プログラム」の実施（日本人学生と合同）

- | | | |
|-------|-------|--|
| STEP1 | 1回生 | 全ての学生を対象に「進路意識調査アンケート」を実施し、それに基づき進路や履修に関する指導・相談を実施。 |
| STEP2 | 1～2回生 | 国際的な企業や団体のトップをなどの講演会や、OB・OGとの懇談会の開催により、大学ですべきことを理解させる。 |
| STEP3 | 1～3回生 | 国内外企業・団体・自治体などで実務を体験する「インターンシップ」への参加を支援し、より目標を明確にする。 |
| STEP4 | 3～4回生 | 国内外企業・団体からの求人情報を提供。学生の希望やスキルを把握した上で、就職活動方法の指導や個人面談により支援。 |

【2】オンキャンパス・リクルーティングの実施（日本人学生と合同）

- 企業・団体の人事担当者をキャンパスに招き、説明会や懇親会だけでなく採用試験や面接をキャンパス内で実施。
(2009年度 340社が来学実施)

【3】インターンシップ・プログラムの実施（日本人学生と合同）

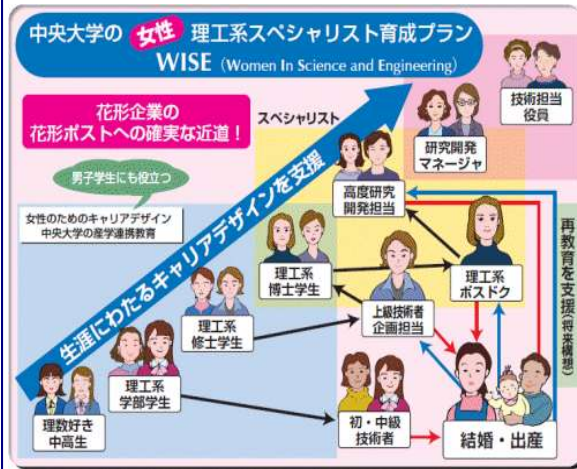
- 学生のニーズに対応し、国内の企業・団体や海外を拠点とする国際企業での実務を体験。インターンシップ先は、大学と企業等が協定を結び実施する「協定型」と学生が情報を入手して独自に行う「独自型」があり、一定の条件を満たした場合は単位を付与。
(2008年度は「協定型」において100人以上の学生が60企業・団体にインターンシップに参加。)

【6】女性の多様なキャリアを意識した取組

女性の多様なキャリアを意識したキャリア教育や、卒業生等の社会で活躍する女性に接する機会を設けるなどの取組を、正課内外において実施。

(例) 中央大学

【WISE Chuo 概要図】



正課内の取組:

企業で活躍する女性研究者・技術者を講師として招き、学部1～3年次の女子学生を主たる対象に、少人数のセミナー形式で、様々な研究開発事例や技術課題の取組を紹介する授業を行っている。こういった取組の紹介を通じて、大学で学ぶ科学技術の基礎と産業界でのその応用の関係を認識させるとともに、女性研究者・技術者に期待される役割を認識させる。

このような具体的事例を題材とした課題演習やPBLに取り組むことにより、学生がより具体的に、科学技術の基礎の理解とその産業応用との関係を理解するとともに、ロールモデルとなる女性との身近で密な交流を通して、学生が自分自身のキャリアを意識した積極的なキャリア形成を行い、専門家への志向を強化する取組を行っている。

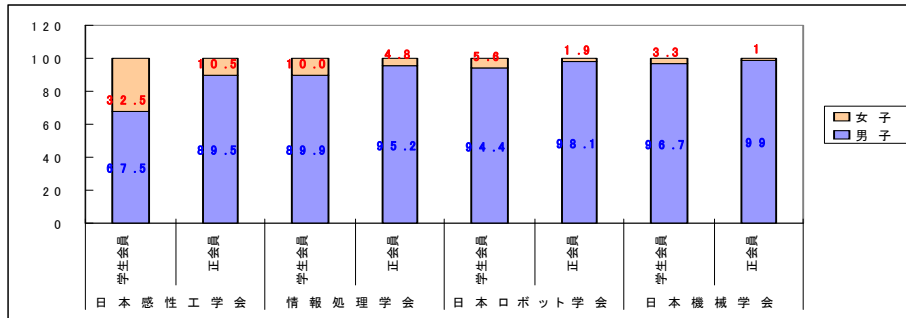
正課外の取組:

本学の卒業生を含む、産業界で活躍している若手・中堅・ベテランの各層からの女性研究者・技術者を招いた講演会や、企業(研究開発の現場)の見学会を開催し、女性研究者・技術者としての仕事・結婚・出産・育児休暇後の仕事の継続方法等、様々なライフステージについての理解も深めつつ、各自のキャリアプランの設計方法について学ぶ取組を行っている。

男子学生と学ぶ男女共同参画:

男子学生にも、このようなロールモデルとなる女性からの講義や交流を通じて、女性研究者・技術者に期待される役割や、女性が様々なライフステージで能力を発揮できるようにするために、男性が果たすべき役割を、学生の間から理解させている。

(参考1) 感性産業・情報通信産業における男女共同参画の現状



【図】学会を構成する学生・技術者・研究者の男女構成比

(各学会より資料提供)

- 女性の活躍が特に期待されている感性産業分野・日本感性工学会であっても、各学会正会員数に対する女性の比率は高くはない。
- 学生(大学院生を含む)時代には当該分野の学習をしておきながら、正会員(研究開発の仕事に従事しているものと考えられる)になる割合が低いことから、職業としては研究開発職に就かない女子学生の比率が高いといえる。

(参考2) 情報通信産業における女性専門職の採用割合(実績)と採用側の希望

技術系女性採用者比率 (%)	採用側の希望		
	2007年	2008年	2009年
A社	27.5	36.2	37.6
B社	11.5	14.5	14.7
C社	10.2	9.7	10.9

【表】技術系女性採用者比率(データは協力企業からの情報に基づく)

【企業からのコメント】

- 「(性別に関係なく)優秀な学生を採用する」のが目的なので、「女性の採用目標」は設定していないが、結果的に技術系女性の採用比率が伸びている。
- 女性比率についてはもう少しアップさせたいと考えているが、応募してくる技術系女性の人数そのものが少ないこともあり、なかなか思うようには向上していない。

参考URL: <http://www.hm.indsys.chuo-u.ac.jp/girls/index.html>

【6】女性の多様なキャリアを意識した取組

女性の多様なキャリアを意識したキャリア教育や、卒業生等の社会で活躍する女性に接する機会を設けるなどの取組を、正課内外において実施。

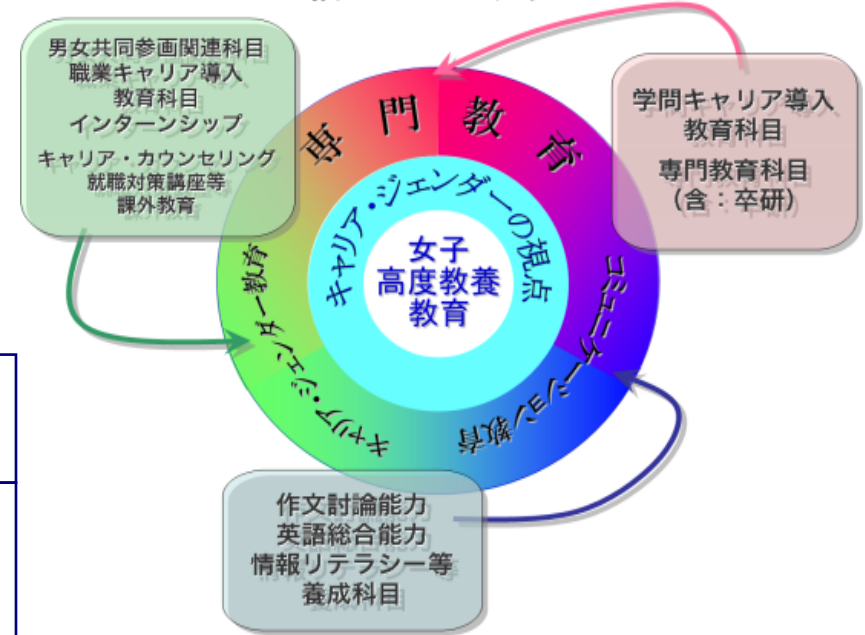
(例)福岡女子大学

専門教育も含めて、大学の4年間の学習を、女子高度教養教育として構築する改革の中で、女子学生の「キャリア(人生)形成」と「男女共同参画社会の実現」を目指す取組を行っている。

具体的には、社会の中で女性が置かれている状況の理解のための授業や、女性の多様なキャリアを意識させるための授業科目(「女性学・ジェンダー論」等)を開設する取組を行っているほか、現代社会で活躍する女性に求められる基礎力を養成する女子専門の高等教育機関として、女子学生のキャリア意識・ジェンダー意識の向上、知的実践能力の向上、実践的コミュニケーション能力の向上を目指す「女子高度教養教育」の実現を図るなど、社会人・職業人としての自立に向けた能力育成を重視し、大学教育の中に位置付ける取組を行っている。

男女共同参画社会をめざすキャリア教育

福女CEプログラム



<具体的な取組例>

職業キャリア導入教育科目の「人生・職業・社会」、「キャリアデザイン」において、授業方法を工夫し、学生の意識と能力の向上に努めている。

「人生・職業・社会 I・II」(1年次前期・後期)

人生・職業・社会の現実を知ること及びそれに自分がどう関わっていくかを考えることを目的とした授業。

予めウェブ上の講義ビデオの内容に関する400字の作文を書いて授業に臨み、授業では各自の作文を基に、3人組での討論(三角(参画)討論)及び全体討論を行う。

「キャリア・デザイン I・II」(2年次前期・後期)

ゲストスピーカーとして前期は卒業生、後期は卒業生に限らず社会で活躍する女性を講師として招き、講師からの講話及び学生と講師との対話を行う。教員は授業のコーディネイト役として参加する。

対話後に学生は講師への「お礼の手紙」を書く。

福岡女子大学の特色

- ①あらゆる機会を捉えてキャリア教育を行う。
- ②学問キャリア導入教育と職業キャリア導入教育を学生教育の両輪とする。
- ③読み書き討論能力を重視し養成する。

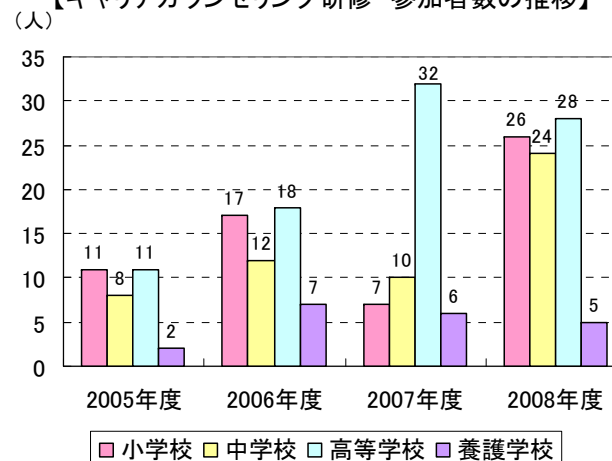
【7】後期中等教育と高等教育の連携

高等教育機関が有するリソースを活用して、後期中等教育の充実に資する取組や、高等学校が専修学校と連携して効果的なキャリア教育を促進する取組。

(例)関西大学

キャリア教育の取組は大学においてのみ行われるものではなく、小学校時代から発達段階に応じて取組を積み重ねることが必要という認識の下、キャリア教育の観点から初等中等教育と高等教育との連携を促進する取組を行っている。具体的には、大阪府教育委員会、大阪市教育委員会と連携し、小・中・高等学校教員を対象とした「キャリア教育入門ーキャリアカウンセリング研修ー」を平成17年度から開催している。研修の対象を教員とすることにより、その背後に存在する大多数の児童・生徒に働きかけられること、また、中学校・高等学校の教員に対しては、卒業生のフォローアップという意味での有効性が期待される。研修プログラムには、キャリア教育の必要性やその実践方法、キャリアカウンセリングを用いた生徒・児童への個別的な対応方法、大学におけるキャリア形成支援の実情といった内容について講義と実習を交えて実施している。

【キャリアカウンセリング研修 参加者数の推移】



(例)大阪府の取組

大阪府では、高等学校のキャリア教育・職業教育の充実にに向けた取組(大阪版「職業アセスメント・プログラム」)の実施に当たり、自治体・教育委員会・専修学校団体、民間団体の連携の下、専修学校のリソース(教職以外の職業経験を持つ社会人、業界で使用される設備、就職支援のノウハウなど)を活用した公立・私立の高校1年生対象の事業が進められている。

具体的には、自己診断テストの実施、ワークショップにおける職業人との交流、専修学校における職業体験学習等の機会を体系的に提供することなどにより、高校生が多様な進路の中から自分の興味や資質、適性に基づく進路選択を行うことができるよう支援を行っている。高校側としては、提供することが困難または調整が大変な点について専修学校が持つリソースを活用した教育ができ、また、専修学校側としては、職業意識の高い生徒の入学が期待される等、連携によるメリットが生まれてきている。

大阪版「職業アセスメント・プログラム」の対象と目標

◇事業の対象

モデル高校10校(府立高校、私立高校)
の高校1年生(約2,600名)

◇事業の目標

このプログラムを通じて、生徒が自己理解、自己肯定感、主体性、社会とのつながりへの意識、勉学等の意欲、などを高めること。

参考URL:

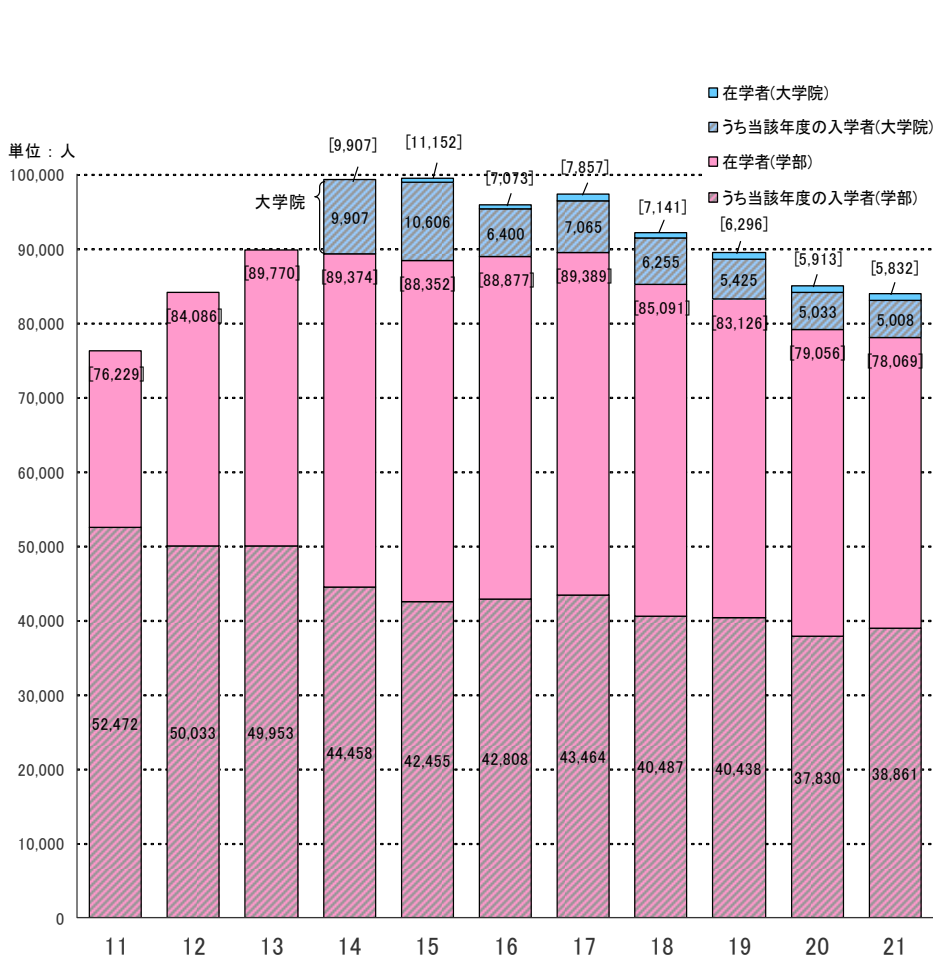
<http://www.osaka-senkaku.or.jp/education/index.html>

学校から社会・職業へ生活が移行した後の学習者に対する支援

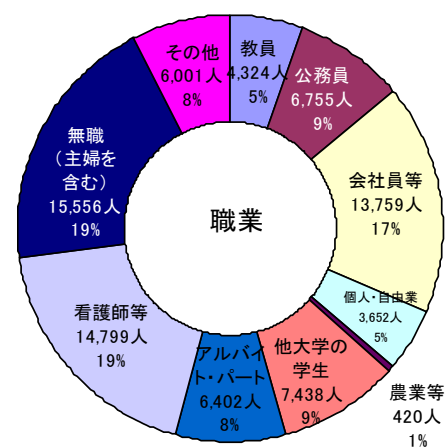
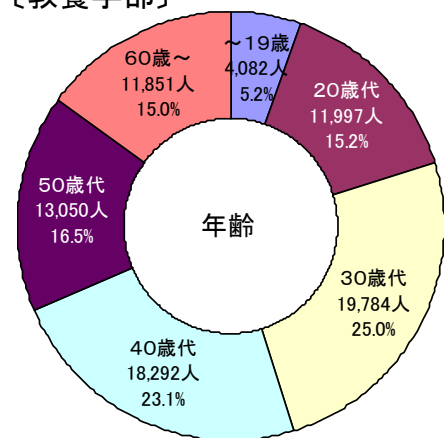
【放送大学】

国民にとって身近な放送メディアを活用し、社会人等に対する大学教育の機会の提供を目的として、昭和58年に放送大学が設置され、昭和60年4月から関東地域において授業を開始した。平成10年にはCS放送による全国放送を開始し、平成13年4月に大学院文化科学研究科が設置され、平成14年4月から学生受入れを行っている。（平成23年からは、BSデジタル放送による授業を開始予定）

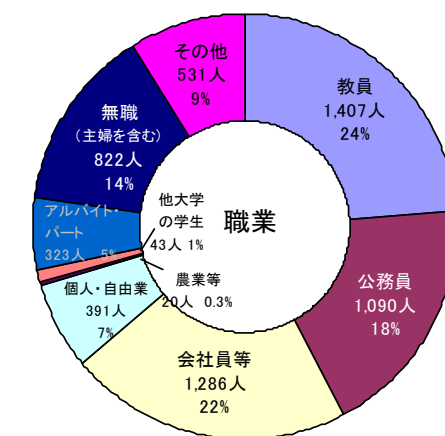
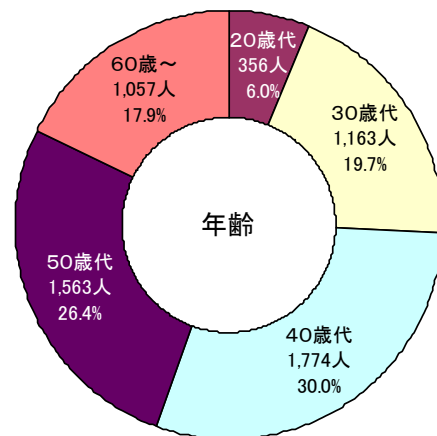
- 放送大学・大学院の入学者・在学者数の推移（毎年度2学期の数）
- 学生の属性（平成20年度第2学期）



〔教養学部〕



〔大学院文化科学研究科〕



学校から社会・職業へ生活が移行した後の学習者に対する支援

【聖徳大学】

子育てから手の離れた女性や、保育士資格または幼稚園教諭免許状の取得者を対象に、実践的な短期集中講座を提供し、再就職やボランティア等の社会参加を支援する取組

○期間：合計22.5時間(全15回×1.5h)

○プログラム構成

大学の教員による理論的背景を持つ講義及び現場で保育を実践している保育関係者による講義、学校の保有する保育施設(子育て支援センター)における実習、により構成

- ・専門知識・技術のブラッシュアップ(8回)
(例)子どもの生活習慣の指導、子どもの発達と保育 等
- ・様々な保育現場の理解(3回)
(例)市の保育の状況、保育ボランティアの仕事 等
- ・子育て支援センター(保育施設)での実習(4回)

○実施体制

市の保育担当部署の職員、幼稚園・保育園関係者、ボランティア団体、商工会議所、人材派遣会社等を構成員とした協力会議を設置。また、学内に「再チャレンジ学習支援サポートセンター」を設け、専任教員(平成20年度は25名)と事務職員を配置。

○講座終了後の対応

受講者は、講義・実習の成果を「ブラッシュアップノート」に記し、学習記録として累積する。プログラム終了後、これを総合的に評価し、出席要件等を満たした者に修了証を授与。

また、受講修了者に対しては、市で募集する非常勤の保育士や派遣会社等の就職に関する関連情報を提供している。

【日本女子大学】

大学卒業後就職し、育児や夫の転勤、進路変更などで離職した女性に、再就職に必要な英語、ITスキル、ビジネス知識を習得させるリカレント教育の実施と、再就職先を斡旋する取組

○対象者：4年制大学を卒業して就職後、一旦離職し、職業への復帰を望む女性(年間60名(各学期30人入学))

○期間：1年間(315時間必修)

○プログラム構成

- ・書類審査および簡単な英語とPC入力速度のテスト
- ・キャリア開発論 I および必修科目7科目、選択必修科目7科目の合計14科目(28単位)の修了とインターンシップの実施
- ・当課程修了者限定の求人情報を載せたウェブサイトによる再就職の斡旋(就職希望者の就職率100%(非常勤含む))

【リカレント教育課程 カリキュラム一覧(2008～2009)】

科目群	科目名		
キャリア開発論 I (無単位) 必修			
キャリア・スキル科目群	英語特訓科目	英語特訓A-1	必修
		英語特訓A-2	
	ITリテラシー科目	英語特訓B-1	
		英語特訓B-2	
	初級	必修	
	上級A		
	上級B		

科目群	科目名	
キャリア基盤科目群	<目白キャンパス>	選択必修
	●教養科目 ●各学科専門科目	
	<西生田キャンパス>	
	●展開科目 ●各学科基本・専門科目	

科目群	科目名	
キャリア形成科目群	キャリア開発論 II	選択必修
	選択英語(ビジネス英語 II)	
	企業会計入門	
	税法入門	
	金融リテラシー	
	<(株)千代田テクノリ寄付講座> 地球環境とエネルギー産業	
	現代企業と人的資源管理	
	労働保険と社会保険 (社会保険労務士準備講座)	
	消費生活アドバイザー準備講座 I	
	消費生活アドバイザー準備講座 II	
	公認内部監査人準備講座 I	
	公認内部監査人準備講座 II	
	NPOとNGO	
	現代ビジネスと起業	
産業の実情と働き方 I (流通産業)		
産業の実情と働き方 I (ファッション産業)		
国際ボランティア論		
ライフステージと法		
インターンシップ	選択	